「SDGs 達成のために自分たちができること」～新聞を活用して考える～

指定校２年次　上田市立第三中学校　奥原　雄樹

（１）本年度のＮＩＥ活動の概要

本年度は主に３年３組の生徒が新聞を活用した学習に取り組んだ。９月は、10 月に行われた衆議院議員選挙に臨む各政党の公約を調べ、自分の考えに近いものを探した。11 月以降は、SDGs の達成のために私たちはどんなことができるだろうか、という学習問題を設定し、学習を進めた。公開授業では、SDGs 達成につながる取り組みの記事を探す活動を行った。２月は、11 月の活動を基に、個人で探究課題を設定し、探究の成果を発表しあうようにした。

（２）本年度のＮＩＥ活動をはじめる前の状況

生徒数：３３８人　学級数：９クラス（各学年３クラス）研究生徒：３年３組（３５名）

３年３組の生徒のうち、新聞購読者数は約半数。ニュースはスマホで見る生徒が多かった。各教科の授業で新聞を扱うことはほとんどなかった。

（３）公開授業以外のＮＩＥの取り組み

① 新聞閲覧台の設置　② スクラップブックの制作　③ 授業冒頭での新聞記事の活用

④ 新聞記事の読み比べ…昨年の公開授業で実施した。メディアリテラシーの重要性を認識させるため、学習問題を「マスメディアは、政治にどんな影響を与えているのだろう。」とした。生徒は終戦の日に書かれた２つの新聞社の記事を読み比べ、違いが生まれる理由を考えた。

⑤ 信毎データベースの活用…新聞記事に慣れる目的で実施した。生徒自身の生まれた日の新聞など、過去の記事を調べて要約した。

⑥ 衆議院議員選挙に関わる記事が多かったため、自分の考えと合う政権公約を探した。

（４）公開授業などの活動内容

単元名：より良い社会を目指して

①　単元設定の理由

ア　持続可能な社会の形成にかかわっていこうという姿勢を養う。

学習指導要領のこの中項目は、よりよい社会を築いていくためにはどうしたらよいかについて、持続可能な社会を形成するという観点から、課題を設けて探究し、自分の考えを説明、論述し、これからの社会に参画していくための手掛かりを得ることを主なねらいとしている。国連が提唱した SDGs は 2030 年までの開発目標として 17 の目標の達成を掲げているが、2024 年の達成度は 17％である。また、日本は 167 か国中の達成度ランキングでは 18 位であり、上位に入っているが、「ジェンダー平等を実現しよう」など５つの目標で最低ランクの「深刻な課題がある」と判定されている。残り６年でできることについて、課題を設けて探究し、自分の考えを説明、論述していく学習は、前述のねらいを達成する手立てとして有効だと考えた。

イ　新聞を活用し、SDGs 達成への取り組みを多面的にとらえることができるようにする。

SDGs は政治、経済、人権、国際協調など、世界を多面的にとらえて設定されている。新聞は情報を一覧できるため、世界を多面的、多角的にとらえることができる。したがって教材として有効に活用することができると考えた。本校は６紙の提供を受けるため、より多くの SDGs 達成につながる取り組みを見つけることができると考えた。

ウ　探究的な活動や共同的な活動を通じて、SDGs 達成への取り組みについて多角的に考えることができるようになる。

仲間とともにスクラップ新聞作りに取り組む中で、互いの考えを聞いたり、新聞記事を基に探究したりする中で、課題をめぐる立場の違いによる対立点を知るなど、多角的な課題の見方を養うことができる。

②　単元の目標

ア　主目標

SDGs 達成につながる記事を新聞から読み取る活動を通じて、国際社会および日本の諸課題を多面的、多角的にとらえ、より良い社会を築いていくために解決すべき課題を、対立と合意、効率と公正の観点から考察し、自分なりの解決策を説明、論述することができる。

イ　具体目標

A　SDGs の達成に向けて、国際社会および日本の諸課題や、その解決のための様々な取り組みについて多面的にとらえ、新聞記事を中心として資料を収集し、的確に読み取り、まとめることができる。

B　国際社会および日本が抱える諸課題を解決する方法について、持続可能な社会を形成する観点から多角的に考察し、表現することができる。

C　国際社会および日本の抱える諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、よりよい社会を築くための解決策について考え続けようとする態度が見られる。

③　単元展開（全１０時間）

学習問題　　学習活動	指導・評価	時間	資料
○SDGｓの課題をとらえよう。 1　将来の社会のために解決すべき課題を挙げる。 2　SDGs の 17 の目標を知り、達成度や日本の課題を調べる。 3　自分が関心をもっている分野についてのアンケートを取る。	・解決すべき課題を書き出して、発表させる。 ・持続可能な社会の意味を確認させる。 ・SDGs の 17 の目標を確認させ、現段階での達成度および日本の課題を調べさせる。 ・SDGｓの 17 の目標を①不平等をなくそう、②地球環境を守ろう。に分け、分野の希望を調査する。	1	ワークシート クロームブック アンケート用紙
○学習問題を設定し、学習の見通しを立てよう。 1　今後の学習問題と学び方の手順について知る。 2　スクラップ新聞の作り方を知る。	・学習問題を「ＳＤＧｓ達成に向けて、私たちはどんなことができるだろうか。」と設定する。 ・分野ごとにスクラップ新聞を作って共有し、スクラップ新聞から自分のテーマを設定して探究し、自分の考えを仲間に発表する活動を行うことを伝える。 ・生徒一人一人に担当分野を伝える。	1	ワークシート 新聞各紙 クロームブック

○SDGｓ達成につながる記事はどんなものがあるだろうか。 1　各紙から記事を探し切り取る。	・担当する分野に関わる記事を探させる。 ・記事は見出しに注目し、全文を読まなくても、たくさん見つけることができると良いことを助言する。 ・判断に困った場合はまず切り取り、教師に質問するように伝える。 ・記事が見つからない場合は、信濃毎日新聞データベースを活用するように助言する。	1 （公開授業）	新聞各紙 クロームブック 信毎データベース
○スクラップ新聞を仕上げよう。 1　班ごとで、分類された記事をスクラップ新聞にまとめる。	・記事は今後の個人探究の候補とすることを伝える。	1	新聞各紙 信毎データベース 模造紙
○スクラップ新聞から学ぼう 1　スクラップ新聞を見学する 2　注目した記事の写真を撮る。 3　学んだことをレポートにまとめる。	・スクラップ新聞を廊下に掲示し、見学する。 ・レポートには、注目した記事についての記述のほか、SDGs 達成への取り組みについて、他者の視点を取り入れ、多面的にとらえることができたかを考えさせる。	1	クロームブック
○探究課題を設定し、学習の見通しを立てよう。 1　学習活動のながれを理解する。 2　探究課題を設定する。 3　テーマに関る記事を要約する。	・前時に選んだ記事を参考に、探究課題を設定させる。 ・世界全体の取り組みだけでなく、日本の取り組みや地域の取り組みも着目させる。 ・記事の要約、記事を選んだ理由、記事をきっかけとして自分で調べたこと。その取り組みをめぐる課題、今後取り組んでいくとよいと考えたことなどをスライドにまとめ、発表することを伝える。	1	ワークシート スクラップ新聞
○課題について探究しよう 1　対立と合意、効率と公正の観点をふまえて解決方法を考える。	・対立と合意、効率と公正の観点をふまえて、解決方法を見出しているかを確認させる。	3	スクラップ新聞 ワークシート
○探究の成果を発表し合おう 1　発表の準備、練習をする。 2　班ごとで一人ずつ発表する。 3　まとめレポートを作成する。	・まとまっている限りでよいことを伝える。 ・発表者の持ち時間は４分とし、聞き手は学んだことや、確認したいことをメモさせる。 ・まとめに、仲間の発表から学んだことや気づいたこと。自分が今後取り組んでいきたいことや考え続けたいことを書くようにする。	1	発表用資料 まとめレポート

④　公開授業　（会場：多目的室）

- 学習問題を、「SDGs 達成につながる記事はどんなものがあるだろうか。」に設定した。
- 生徒は、担当する分野に関わる記事を各紙から探して切り取る活動を行った。
- 生徒には、記事の見出しに注目し、たくさん見つけると良いことを助言した。
- SDGs の達成につながる記事はどれくらいあったかや、どんな取り組みが行われているのかなどについて学んだことを具体的に記述するレポートに取り組ませた。
- SDGs 達成のための様々な取り組みを知るとともに、別の分野の取り組みについても関心をもつことができたかを評価した。

（５） 生徒の反応

① 第３時　ＳＤＧｓ達成につながる記事はどんなものがあるだろうか。

振り返り　SDGｓ達成につながる記事はどのようなものがありましたか？具体的に書きましょう。また、関心をもったことを書きましょう。

二酸化炭素を減らすためのとりくみや地球温暖化を止めていくにはどうするなどの自分たちがとりくんだほうがいいことが書いてある記事が多かったです。同性婚についての記事がたくさんあったので差別についてもさらになりました。

この活動では、記事の事柄について疑問をもったり、仲間と話しあったりする姿がみられた。振り返りの文のように、自分が興味をもった分野以外の分野取り組みについても関心をもつことができる生徒も見られた。

② 第 10 時　探究の成果を発表し合おう　（代表例：「女性の進路について」）

新聞記事から

新聞記事から

女性の理系進学が少ない理由には、周りの友達の理系選択率が低いこと、親の志向、ロールモデルになる人の不在などが挙げられる。

新聞の取材に応じた女性は理系選択をしたが、就職後も女性は産休や育休をとることが多く、同期の男性たちが次々と昇格しているなか、自分だけ取り残されてしまう。育休があけると、フレックスタイム制度などをうまく使い、家事は夫婦で分担することで育児と仕事の両立をしている。

性別は関係ない。やりたいことを諦めずに貫くのが大事。

調べたこと（現状）

・理系＝男性の連絡、文系＝女性の連絡　というイメージを持つ人が多く、女性の理系進学率は男性と比べて少ない傾向にある

・そもそも女性が理系に興味を持つことが難しい（例えば幼少期に、男子は車やロボットなどで遊ぶのに対し、女子はおままごとなどをすることが多いため、機械に親しみにくく、憧れも持ちにくい）

機会の平等が保たれていないのでは？？

調べたこと（取り組み）

・女子中高生に対して理系分野への興味や関心を喚起する活動を行う（女子には理系進学が難しいのではないかと考える親への説明も重視）

⇨機会の平等の確保

・理系学部での女子枠の設置（2025年度入試では東京科学大学や京都大学など30校で設置された）

⇨女性の理系志望者の増加

調べたこと（課題）

・女子枠を設置することで男女平等ではなくなってしまう

⇨女性側にも男性側にも不満

今後取り組むべきこと

・女子枠の廃止（理系女子が増えるまでは女子枠を設置）

・女性が受験に有利になってしまうことに対しての男性からの理解を得ること

・女子が理系活動に興味や関心を喚起する活動の継続

この生徒は、新聞記事から生まれた問いについて、現状や取り組みを調べたところ、取り組みの公平性について課題が出てきたため、課題をふまえ、解決策を考えることができた。

③ 単元終了後の生徒の振り返り

ＳＤＧｓの達成に向けて、自分が今後取り組んでいきたいことや考え続けたいこと。

私は今までSDGsを少し他人事に思ってしまっていた。政府や団体などがやるものだと思っていたけど私たちにできることは結構たくさんあると思った。今回の授業を通して、ガザ戦争のことを詳しく知ることができたがまだ全てを理解したわけではないしこれからも状況が変化していくと思うから、学び続けていきたい。戦争は今の私たちの生活では考えられないことだけどいつ起こってもおかしくない世の中だから、他人事にならずに「戦争」について考え続けていきたい。

新聞を活用した授業全体について、学んだこと。

今の世の中がどうなっているのかに触れてものごとに対する取り組みなどを知ることができました。3年間の地理や歴史、公民とつなげて考えることが楽しかったし、「自分だったらこう考えるな」だけど、他の人からはどうだろう」と様々な視点で公正と効率の観点で考えることの大切さを学びました。

（６） １年間取り組んだ成果と課題

日ごろ新聞を読む機会が少ない生徒だったが、活動を通じて持続可能な社会の形成にかかわっていく姿勢を育むことができた。また、探究的な活動や仲間との共同的な活動により、SDGs 達成への取り組みを多面的、多角的にとらえることができた。

活動全体の反省は、ＮＩＥの活動を、学校全体の取り組みにすることができなかった点である。３年生は、総合的な学習の時間に、市議会に働きかけて、こども議会を開き、地域の課題の解決策や地域の活性化策を提案する取り組みを行った。このことに新聞を活用する機会を作れたら良かったと反省している。